

実践計画書

～教育の情報化を目指したインターネット活用と生徒支援プロジェクト～

1. このプロジェクトを行うに至った背景

本校は平成15年度に全国でも初めての「フレキシブルスクール」として生まれ変わります。その1期生がこの春入学してきました。フレキシブルスクールの基本は「全日制単位制普通科」ですが、ダイナミックな授業展開をすることにより、個々の興味関心に応じた科目選択や、午前型・午後型等の時間割作成が可能となります。また不登校や中退者など従来型の学校に適応できなかった生徒についても受け入れながら、学習へのさまざまなアプローチを提供していく学校です。一学年240人定員ですが、「240通りの高校生活を応援します」をキャッチフレーズにしています。

2. 目的

ハードウェアを整備して、配信する教育用コンテンツを作成し、いつでもどこでも学習をしたり、情報を収集できる環境構築を行います。

さまざまな生活スタイルをもった生徒とのコミュニケーションをはかっていくために、「生徒指導・支援体制」においても積極的に情報ツールを活用していきます。

3. スケジュール

- 5月 教職員用メールアドレス配布
全1年生にメディアリテラシー教育の実施(4月～6月 全10時間)
- 6月 学内サーバーの構築
生徒・保護者向けホームページの公開
- 7月 教育用コンテンツの作成開始
図書室へのWeb端末設置
教職員用アドレス公開
- 8月 映像コンテンツのストリーミング化
- 9月 全1年生にアドレス(校内用)を配布
教員・生徒間でのメールによる情報伝達・相談開始
- 10月 教育用コンテンツ配信開始
- 2月 まとめ

詳細については別紙に記載しました。

4. 実践内容

ドラえもののどこでもドア プロジェクト

いつでもどこでも学習をすることができる「学習環境・内容」を整えていくことを計画しました。具体的には

- ア．図書室へのW B T 端末の設置
- イ．E - learning 用「教育コンテンツ」作成と配布
- ウ．ホームページによる学校情報伝達

です。アについては平成15年度完成を目指して、さらに生徒棟のラウンジや自習室まで設置範囲を広げていく計画です。

図書館のメディアセンター化を目指して、ターミナルクライアントとしてのW e b 端末を設置します。メールによる生徒支援体制をとっていく計画ですが、各自で携帯等の端末を用意しなくとも、学内にあるW e b 端末で情報を得たりメールをやり取りしたりできるようにします。将来的にはラウンジ、自習室等にも広げてW e b 端末を設置していく予定です。またインターネットについても自由に閲覧できる環境を作ります。

この設置については、セキュリティー、不適切なホームページの閲覧、使い方のモラル等さまざまな解決すべき問題も予想されます。それらを検証して、解消していくことも今回のプロジェクトの重要な要素の一つです。

またW e b 端末では授業で使った教育用コンテンツや、体系的に整理された情報リテラシー用の講習教材で自学自習ができるようにします。これらは図書室のW e b 端末以外に、放課後に開放されているパソコン教室でも可能となります。

授業や講習で利用した教材が、生徒の都合に合わせて、好きなときに好きな場所で活用できる環境を提供します。将来的には著作権等の問題をクリアした教材は、校外から閲覧できるようにしていきます。

先生はメルトモ プロジェクト

個々の時間割に対応したり、さまざまな生活スタイルをもった生徒とのコミュニケーションをはかっていくために、「生徒指導・支援体制」においてメールを活用していきます。具体的には

- ア．教職員全員への公用メールアドレス配布と保護者・生徒への公開
- イ．全1年生への校内用メールアドレス配布

です。これを利用して、校内外からの相談を受けたり、また逆に情報伝達を行ったりしていきます。

生徒支援については対面指導を基本とすることは当然ですが、その補助としての情報機器の活用を目指します。携帯端末や家庭のP C など校外にいながらコミュニケーションがとれるシステム作りを目指し、気軽に相談ができるようにします。将来的には携帯電話等を禁止するのではなく、むしろ積極的に活用する方針をとっていく予定です。